

自由のともいきび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 92

2022 MARCH

- 第107回高知近代史研究会報告
スラシルと高知を結ぶー森田友和氏関連資料整理から見えるものー
- 企画展「春野地域名望家の記録ー細川義昌と吉良順吉ー」
- 出前授業に行ってきました!
- 第22回社会科自由研究作品展報告



足摺岬沖で採集された甲殻類と貝類の標本



高知県沿岸で採集された日本有数のサンゴ標本コレクション



四国随一の哺乳類骨格標本コレクション



約50年間にわたって室戸岬周辺で収集されたチョウ類標本コレクション

■リレーエッセイ

高知県に現存する 自然史科学標本の情報収集調査

近い将来、高知県産の自然史科学標本、とくに生物標本の行先を模索する事態がやって来ます。その多くは個人収集標本で、今後高知県外へ流出する可能性が極めて高いと考えられます。そして、これらの標本の中には、高知県に生息する生物の分布情報の証拠となるものも含まれていますが、その全貌は明らかになっていません。

そこで、現在高知県内にどのような自然史科学標本があるのか、その量や保管管理の状況はどうなっているのか、今後どの程度の期間現状を維持できるのかを調べましたので紹介します。

なお、本活動は「令和3年度高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金」を用いて、こうちミュージアムネットワークが実施しました。

情報収集のために、「高知県内在住で生物標本を所有している個人、団体」を対象に、標本を拝見させていただきながらお話を伺いました。さらに県立自然史博物館的な施設ができれば、「博物館活動に協力する意思があるか?」についても、お聞きしました。

調査の結果、多くの分野の生物標本が高知県内には存在することがわかりました。そしてその多くが近い将来散逸もしくは県外へ流出するおそれがあることと、標本所有者の多くが高知県に収蔵庫を望んでいることもわかりました。また、県立自然史博物館的な施設ができれば、多様な生物分野の標本が寄贈、寄託および随時貸出などで多くの方から協力が見込まれることもわかりました。

今回の調査によって得られた情報を高知県と共有するとともに、広く県民に普及啓発して、高知県内の生物標本について今後どのように扱って行けば良いのかについて、様々な立場、地域の方々々と検討してゆこうと考えています。

谷地森秀(こうちミュージアムネットワーク)

ブラジルと高知を結ぶ

―森田友和氏関連資料整理から見えるもの―

村中 大樹 氏

(大阪大学大学院文学研究科博士後期課程)



太平洋戦争が終わって間もない期間にブラジルと日本(高知)を結ぶ活動を行っていた森田友和氏の資料群が、高知市立自由民権記念館に寄贈されている。そのうち書簡類を取り上げ、ブラジル移民研究における重要な資料として紹介した。

森田氏は、高岡郡波介村(現在の土佐市)出身、昭和九(一九三四年)に両親とともに三歳でブラジルに渡り、サンパウロ市近郊のコチア郡で暮らした。コチア郡は、高知県出身者が多く、ブラジルで一時南米最大の規模となったコチア産業組合創業の地として知られる。森田一家はブラジルに定住せず、二人の兄弟を残して昭和二六(一九四二)年には帰国する。森田氏は、家族より一足早く、同年代の子どもたちとともに日本に戻った。当時、教育のために子どもだけ帰国させることは珍しくなかったが、その際、大人が引率者として数人の子どもを日本まで送り届けることがあった。またそのため戦争によって家族が分断されることがしばしば起こった。

自由民権記念館が所蔵している書簡には、コチア産業組合専務理事や森田氏帰国時の引率者からのものが含まれている。それぞれブラジル日系社会で重要な役割を果たした人物であり、同郷や同船、あるいは二世といった横のつながりがあったことがまず確認できる。

報告では、戦後コチア産業組合専務理事をつとめた大平清実と「移民二世」の書簡を取り上げた。

太平洋戦争の終結後、ブラジル日系社会では「勝ち組・負け組抗争」と呼ばれる日本人移民間での対立が社会問題となっていた。この混乱において、コチア産業組合は、認識運動¹の旗振り役を担っている。大平は、慰問物資の正確な配送とともに、郷里高知からブラジルの同胞へ向けて日本敗戦の正確な情報を親族に向けて送って欲しいと手紙の中で頼んでいる。当時一七歳の青年であった森田氏は、これに応え、同郷の大平と手紙のやり取りを重ねるなかで積極的に高知のメディアへ情報提供を行っている。

「負け組」は当時の日系社会では圧倒的に少数派であった。当面日本に帰れる見込みがない移民にとって、敗戦を認めることはブラジルでの生活を建てるにあたっての大前提であった。また産業組合にとっては、「勝ち組」の横行は、活動に支障をきたす重大な問題である。したがって「負け組」による認識運動は戦後日系社会の重要項目であり、さまざまな方策がとられたが、なかでも日本にいる親族から日本の状況を知らせる手紙を送ってもらうことが効果的であると考えられていた。大平書簡には、その働きかけの内容が具体的に記されている。産業組合専務理事からそうした依頼があったことが確認できることも含めて、貴重な史料だといえる。

もう一つは、ブラジルに残った家族と離れて暮らす「移民二世」からの手紙である。戦後高知で「ブラジル二世クラブ」を結成した森田氏は、ブラジル日系二世の集いである「南桜会」を結成したとされる馬場謙介(森田氏帰国時の引率者)や、ブラジルと日本との間で生き別れになった二世らの世話をしていた組織「青空会」代表と連絡を取り合っていた。青空会代表

は、広島にいる二世が帰国の準備を進めているものブラジルにいる両親が「勝ち組」であるため、帰国することができずに困っているから様子を見に行つて欲しいと森田氏に依頼している。これまでほとんど注目されることなかった、戦後日本で暮らす移民二世のおかれた状況が伝わる興味深い内容であると同時に、同様な境遇におかれた二世らが支援のネットワークをつくり、情報共有が行われていた様子も確認できる。

紹介した書簡をはじめとする森田氏の資料群は、戦後(一九四六―一九五二年)のブラジル日系社会をめぐる動向を知るための貴重な手がかりとなる。

¹ 日本敗戦を受け入れた当時の日系社会の指導者層が中心となり、その事実と日本が置かれた現状を「勝ち組(戦勝派)」の人びとに広めようとした運動。時局認識運動、運動に従事する人びとは「負け組(認識派)」と呼ばれた。

国立国会図書館サイト「第六章 日系社会の分裂対立(一)勝ち組と負け組」
ブラジル移民の二〇〇年
https://www.ndl.go.jp/brasil/s6/s6_1.htm



春野地域名望家の記録

— 細川義昌と吉良順吉 —

期間 2022(令和4)年4月29日(金)〜2023(令和5)年5月7日(日)
会場 2階 特別展示室

近代における地域社会のリーダーとして、多方面で活躍した「名望家」たち。本展では、高知市春野町出身の名望家、細川義昌(秋山村)と吉良順吉(弘岡下ノ村)に関する記録を中心に紹介します。二人は同郷であるだけでなく、同じく地主であり、農家出身であり、自由民権運動に参加した経歴を持ちます。細川・吉良両家に伝わった資料から、春野地域の名望家の役割とその実態に迫ります。

一 地主として

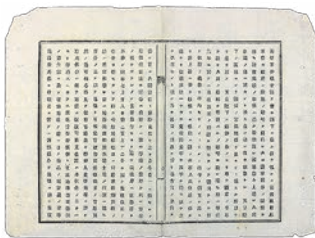
細川・吉良両家には、近世以降の土地所有に関する資料が多く伝わっており、明治期のものからは、地租改正による地域の混乱がうかがえます。義昌は明治一四年から秋山村の地主総代として地位等級の選評を行います。選評結果は課税額に直結するために度々揉めごとが起こり、村内の調整に奔走する日々を送っていたようです。



地券(細川家資料)
地租改正により、私有地の証明として新たに「地券」が配られた。

二 自由民権をもとめて

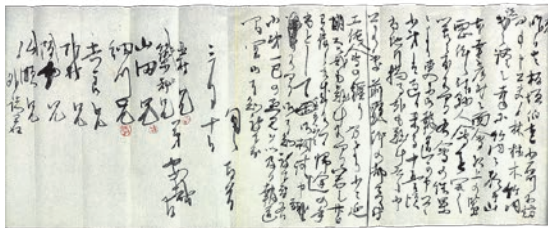
義昌と順吉は、地方議員として活動しながら、吾南地域の自由民権運動指導者としても活躍しました。地租減額を訴えた三大事件建白運動では、兩名とも吾南郡南部一五箇村総代として上京し、保安条例による退去命令を受けました。義昌はこれに心はず入獄、細川家には獄中から母に宛てた書簡が伝わっています。



地租軽減建白書(吉良家資料)
植木枝盛起草。



細川義昌書簡 田所梶宛(細川家資料)
獄中書簡。



武市安哉書簡 山田平左衛門他宛(吉良家資料)
第一議會解散後の土佐派の動向を記した書簡。宛名には義昌、順吉兩名も含まれる。

三 地域のために

順吉は民権期から数々の社会事業に携わり、高知育児会副会頭を務めた時期に産婆教授所を設立、墮胎圧死の習慣根絶を目指して演説活動も行いました。また、息子の禎吉は蚕種検査員を長年務め、養蚕業の発展に貢献したとして大日本蚕糸会から功労者表彰を受けています。

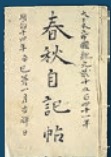
義昌は高知県水産組合の初代組合長として漁業権認可のため尽力したほか、高知育児会会頭、土佐慈善協会会長、土佐農工銀行監査役などの要職を歴任。細川家には被災地や教育施設への寄付金に関する資料も伝わっています。

名望家たちは、豊かな経済力と教養を有しながら、政治・産業・教育など様々な分野で地域に貢献し、その発展を支えました。

コーナー展示

日記の世界

12,000点を越える細川家資料の中でも、特に近代研究に活用されてきた日記類。このコーナーでは義昌と家族の日記を紹介するほか、吉良家に伝わる禎吉の日記を初公開。名望家たちの日常をのぞいてみませんか。



細川義昌日記
(細川家資料)

細川家資料
吾川郡秋山村(現・高知市春野町)出身の民権家、細川義昌の家に伝わる資料群。当主日記、書簡、書籍など。



吉良禎吉日記
(吉良家資料)

吉良家資料
吾川郡弘岡下ノ村(現・高知市春野町)出身の民権家、吉良順吉の家に伝わる資料群。息子・禎吉を含む親子二代の活動記録。禎吉日記、書簡など。令和二年新収資料(寄託)。



高知育児会規約
(吉良家資料)



吾川蚕糸会
第三回品評会名簿 繭の部
(吉良家資料)



高知県水産組合感謝状
(細川家資料)

出前授業に行ってきました！

当館では、自由民権運動や高知市の近代史について興味・関心を持ってもらうため、様々な学校連携事業を行っています。今年も、高知市立潮江南小学校からお声がけいただき、5年生のクラスへ出前授業に行ってきました。

今回の御依頼は、潮江南小学校開校五〇周年記念に児童のみなさんが潮江地区の歴史について調べ学習をするに当たって、潮江地区にどういった歴史があるのか紹介してほしいというものでした。高知城歴史博物館と協力し、フィールドワークの実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により校外活動が難しくなりました。そのため、全三回の出前授業に変更となりました。

当館は、「竹島跡」「板垣退助と潮江地区」「潮江地区の自由民権運動」の3つのテーマについて紹介しました。

竹島跡について

竹島は潮江地区にある史跡の一つです。写真を映し「見たことありますか?」と問いかけると、「家の近く!」「毎日見てる!」などと答えてくれました。

竹島の「島」という名からはこの場所が昔は海に囲まれていたことが、明治初期の地図からは地域が埋め立てられた後も山のような形を残していたことが分かります。その後の開発によって大きく削られた結果、現在では大きな岩のようにしか見えない竹島跡ですが、潮江地区の地理と開発の歴史を物語る重要な史跡なのです。



板垣退助と潮江地区について

児童のみなさんはまだ自由民権運動について学習していないため、まずは当館が作成した子ども対象DVD「自由民権って何?」を視聴してもらった後、板垣退助邸跡、板垣退助帰朝記念碑について紹介しました。

板垣退助は、自由民権運動が盛り上がりを見せていた明治一〇年秋から潮江新田(現在の高知市萩町二丁目)に移り住んでいます。ここには、片岡健吉や植木枝盛、河野広中など、県内外から著名な民権家が数多く訪れました。この家の思い出話として、退助はいつも大小の刀とピストルを枕元に準備して寝ていたというエピソードもお話しました。

また、退助が洋行から帰ってきた際に大規模な歓迎会をした「丸山台」という島について、自由民権期は温泉が経営されていたことを当時の新聞挿絵とともに紹介すると、みなさん大変驚いた様子でした。さらに、温泉水として海水と五台山の「独鈷水」を混ぜて使っていたことを説明すると、「独鈷水を汲んできて御利益があったら、生きた鯉をお返しせないか」とお母さんが言いよった」というお話をしてくれた児童さんもいました。



板垣退助邸跡



自由民権運動が盛んな頃、高知市内には地域ごとに民権結社が存在し、潮江地区には発陽社がありました。発陽社に参加した地域の民権家として岡本方俊と弘瀬重正がいます。

潮江西の丸公園にある石碑の存在を知っている児童さんも多くいました。

岡本が爆弾で大けがをしたことや、弘瀬が福島で自由民権運動の先生をしていた頃の月給が十円であったことを話すとみんな驚いてくれました。ちなみに月給十円は当時それなりの金額なのですが、みなさんには安すぎると思えたようです。お金の価値は変わることを伝え「一五〇年前の一円つて今の何円くらいだと思いますか？」と声をかけると口々に数字を答えてくれました。



岡本方俊記念碑・弘瀬重正顕彰碑
潮江西の丸公園に、並んで建立されている。

歴史の学習が

まだ始まっていないみなさんにとって、
少し難しい話もあったかもしれませんが、
地域の歴史について興味を持つ
きっかけになっていれば幸いです。

展示解説・体験メニューの御案内

出前授業のほか、社会科見学や遠足等で来館いただいた児童・生徒のみなさんに、学芸員や担当者による展示解説を行っています。また、楽しみながら自由民権運動及び近代の歴史を学べる体験メニューを御用意しています。御希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

●常設展示解説

(1時間程度／時間は調整可能)

●企画展示解説

(30分～1時間程度／開催期間のみ)

●DVD「自由民権運動って何？」鑑賞

(15分程度／子ども向け)

●大型パズル

(当館所蔵の古地図・錦絵などをパズルにしたもの)

●すころく体験

(自由民権運動についての近代のすころく)



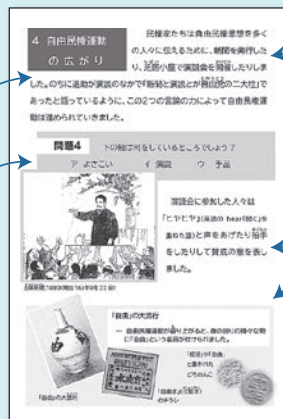
ワークシートを改訂しました!

児童・生徒のみなさんを常設展示室に案内する際に配布している「ワークシート」を、より使いやすく、理解しやすく、親しみやすいものにするための改訂を行いました。

改訂に当たっては高知市教育研究会社会科部会の先生方に数々の貴重な御意見をいただきました。御協力ありがとうございました。

常設展示室と同じ章立てになりました。

楽しみながら展示室を回ってもらえるよう、クイズを作成しました。どの学年の子どもでも回答しやすいよう、記述式ではなく選択式にしました。



読み物として学校や家で活用してもらえるよう、各章すべての概要を記しています。

解説文とともに絵や資料画像を掲載することで、視覚的に自由民権運動を理解してもらえるようにしました。

社会科自由研究作品展報告

期間 令和4年1月22日(土)～2月27日(日)
共催 高知市教育研究会社会科部会

当館開館一周年を記念して始まったこの作品展は今年で二二回目となりました。今回も「歴史」「人物」「地理・文化」など全八分野に数々の力作が集まりました。

応募数は合計一三六点(小学校二六校、中学校一校)。その中高知市教育研究会社会科部会の先生方約三〇名による審査で特別賞一五点を選定しました。

本年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から表彰式は中止とし、特別賞受賞者の皆さんには表彰状と副賞をお送りしました。特別賞受賞作品を下表で紹介いたします。

なお、期間中は約九五〇名の方に御覧いただきました。ごもありがとうございました。



おさつについてしらべた研究や
すごろく、都道府県パズルが
おもしろかったです。

皆さん良く調べて、
ていねいに記録して
いて感心しました。
問題意識もしっかり
ふまえて素晴らしい
作品ばかりでした。

～来場者アンケートより～

どの作品も発見があり力作!
すばらしいと思いました。
来年も見に来たいです。

第22回社会科自由研究作品展 自由民権記念館特別賞受賞作品

受賞名(分野)	学 校	学年	氏 名	作 品 名
体験	高知大学教育学部附属小学校	1	鈴木 結仁	はんにんはだれだ?
総合	横浜新町小学校	2	高橋 希実	みんなのえがおのために～びょうきとたたかう子どもたちにかみをおくろう!～
	昭和小学校	6	三嶋 悠平	東日本大震災の原子力被害について考える 震災から10年 被災地のいま
地域・福祉	高須小学校	2	長尾 佳奈美	ぼうさいリュックをしらべよう～わたしにひつようなものは何かな?～
	高知大学教育学部附属小学校	3	森部 詩乃	点字の世界におじゃまします。
地理・文化	高知大学教育学部附属小学校	3	太田 琉月菜	橋にはひみつがいっぱい
	小高坂小学校	4	徳平 健佑	高知やに、りゅうきゅう?
	大津小学校	4	平石 杏久	世界の国旗調べ
	鴨田小学校	5	森本 恭加	高知市の公立小学校の校章と意味、由来
環境	介良潮見台小学校	6	清水 いろ葉	SDGsについて
	横浜小学校	6	林 侑俐亜・山本 実嬉	減らせ! プラごみ
産業・交通	大津小学校	6	藤原 快成	「たっすいがはいかん!」高知の人生ゲーム
人物	はりまや橋小学校	6	岡林 修司	高知の偉人～16の銅像めぐり～
歴史	春野東小学校	6	楠瀬 芽依奈	春野小の校区の神社について
	旭中学校	2	マドン ティリー	旧仁淀村についての歴史探究



よしだ まさはる
吉田 正春
(1852~1921)

一八五二(嘉永五)年四月一九日、吉田東洋の長男として出生。母は、後藤象二郎の伯母・琴。一八六二(文久二)年四月八日、東洋が土佐勤王党に暗殺され、一八六四(元治元)年に母が病死した後は、従兄弟の後藤象二郎に育てられた。藩校致道館で学んだ後、一八六八(明治元)年、江戸に出て英学や法学を学ぶ。

一八七〇(明治三)年から一八七三(明治六)年までの間、外務省職員として横浜の英国総領事館に勤務し、総領事ジョン・ケリー・ホルの薫陶を受けた。一八七四(明治七)年、司法省十三等出仕となり、一八七六(明治九)年には愛媛県七等出仕兼七等判事に、翌一八七七(明治一〇)年一月には、権少書記官に就任したが、同月一九日、依願退職。同年四月、立志社創立後に帰高して、自由民権運動に参加し、六月に片岡健吉が京都市在所に提出した立志社建白の起草に、植木枝盛とともに関わった。その後、立志社機関誌『海南新誌』『土陽雜誌』などの編集者として活躍し、演説会では厳しい政府批判を行い、聴衆を驚かせる場面もあった。一八七九(明治一二)年五月二〇日には、ロンドンで馬場辰猪と傷害事件を起こした親友の真辺戒作が、突然来訪し、正春の眼前で自殺をとげる衝撃的な事件が発生している。この事件の後、再び外務省職員となった正春は、一八八〇(明治一三)年から一八八三(明治一六)年の間に二度の外遊を経験した。

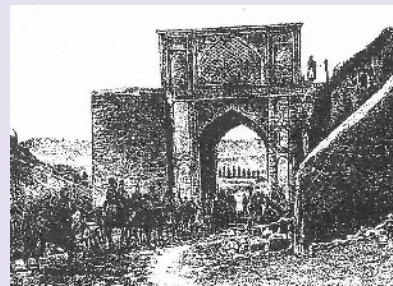
初めは一八八〇(明治一三)年四月から翌一八八一(明治一四)年七月までであり、外務省御用掛としてカージャール朝ベルシヤを国情・商況調査の目的で訪問し、翌年トルコ経由で帰朝している。これは、一八七八(明治一一)年、榎本武揚駐ロシア公使が、ロシアでベルシヤ国王及び総理大臣と会見したことがきっかけとなった外遊である。正春を団長とする使節団総勢一〇名は、出身も国籍もまちまちな混成部隊であり、旅程は非常に過酷なものであった。一八九四(明治二七)年に著した『回疆探検・波斯之旅』によると、吉田使節団は、イラン南部の港町を七月に出発し、ラクダにまたがり砂嵐や盗賊、猛獣に怯えながら、激しい温度差にも耐え、イラン高原や砂漠地帯を踏破した。二度目は、一八八二(明治一五)年三月から翌年八月までの間、伊藤博文の憲法調査に外務省少書記官として欧州派遣に随行しており、ドイツでは法学博士のグナイストやラスカルに接見するなど、憲法や地方自治制度の研究を精力的に行った。

一八八六(明治一九)年には外務省を辞め、後藤象二郎の大同団結運動に参加し、一八八七(明治二〇)年一二月の保安条例発布により、東京から満三年の退去命令を受けた。その後、『政論』などに執筆活動を行い、一八八九(明治二二)年に後藤象二郎が通信大臣に就任すると通信書記官となった。一九〇四(明治三七)年、退官した後は、日中友好活動に力を尽くし、一九二一(大正一〇)年一月一八日、東京青山で死去した。なお、正春の墓は、東京上野の谷中墓地に親友の真辺戒作の墓の隣に建立されている。

正春は、後藤象二郎同様、民権運動側と政府側との出入りが激しく、一貫性のない人物として評価されている。しかし、日本人としていち早く中東世界に足を踏み入れ、晩年は日中友好活動に力を尽くした国際的で広い視野を持った人物でもあった。



イスマハン府中央ノ会場
イスマハン府とは、イランのエスファハーン州の州都。
吉田正春著『回疆探検 波斯之旅 全』東京博文館
1894(明治27)年発行(国立国会図書館デジタルライブラリー)より転載



シラズ府二入ル砦門
シラズ府とは、現在のイラン南西部の都市・シーラーズ。
吉田正春著『回疆探検 波斯之旅 全』東京博文館
1894(明治27)年発行(国立国会図書館デジタルライブラリー)より転載

出版物のお知らせ

『板垣退助伝記資料集』全18巻

- 第1巻～第6巻 税込18,000円 (好評発売中)
- 第7巻～第12巻 税込18,000円 (好評発売中)
- 第13巻～第18巻 税込18,000円 (予定)

郷土の偉人であり、自由民権運動の指導者である板垣退助に関する史料を年代順に収録した資料集です。本資料集は、単に板垣個人の行動記録をまとめただけでなく、板垣の広範囲にわたる活動や知られざる哲学と思想に迫る構成になっています。

当館開館30周年記念出版として、令和2年度に第1巻～第6巻、令和3年度に第7巻～第12巻を刊行。令和4年度秋の刊行をもって、全18巻完結予定です。

購入・お問合せ:民権・文化財課(自由民権記念館内)
TEL/088-832-7277 FAX/088-831-3378

第2展示室 コーナー展示のお知らせ

当館では、自由民権運動の資料だけでなく、土佐の近代に関する資料を幅広く収集しています。今回のコーナー展示では、令和元年度から3年度にかけて新たに受け入れた資料の中から、新着資料紹介として、錦絵・書・地図などを展示しています。初公開の資料もありますので、この機会にぜひ御覧ください。



行事予定 (春・夏)

予定は変更になる場合があります。詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。
◆は当館内自由民権記念館友の会事務局にお問い合わせください。
※新型コロナウイルスの感染状況によっては、延期・中止とさせていただきます。

4月29日(金・祝)～2023(令和5)年5月7日(日)

■企画展

「春野地域名望家の記録－細川義昌と吉良順吉－」

会場: 2階特別展示室

※常設展・企画展共通観覧券が必要

※5月1日(日)、9月18日(日)にはそれぞれ13時30分から担当学芸員によるギャラリートークを行います。(申込不要)

4月29日(金・祝) 15:00～17:00

◆自由民権記念館友の会総会・記念講演会

申込不要

「美しき座標を求めて－高知新聞連載余話」

講師: 天野弘幹氏(高知新聞社会学芸部長)

会場: 1階民権ホール

講演概要: 高知新聞に連載中の「美しき座標－平民社を巡る人々」は、日露戦争に反対して平民新聞を創刊した幸徳秋水ら、明治の若き群像を描いています。誰もしが平和に生きられる社会を目指そうとした彼ら。その姿を通し、現在と未来に向けての座標軸を捉え直そうという連載は、2021年1月のスタート以来、読者の方々に支えられ、長期の企画になっています。連載の狙いと今後の展開についてお話しします。

※総会 13:30～15:00

6月11日(土) 14:00～16:00

事前申込

■企画展「春野地域名望家の記録－細川義昌と吉良順吉－」

記念講演会

高知近代史研究会総会・第109回研究会

「地域社会における名望家の登場とその影響」

講師: 徳平晶氏(オーテピア高知図書館高知資料担当)

会場: 1階民権ホール

※総会 13:30～13:50

7月26日(火) 10:00～12:00(予定)

■夏休み子ども歴史教室

小中学生が、館内で自由民権運動に関するクイズラリーに挑戦します。

※学校を通じて申込受付

8月27日(土) 14:00～16:00

事前申込

■高知近代史研究会第110回研究会

「香酸柑橘(酢みかん)と高知(飯)」

講師: 百田美知氏

(一般社団法人和食文化国民会議 全国「和食」連絡会議 幹事兼「和食」地域特派員)

会場: 1階民権ホール

